



イオン株式会社
グループ環境最高責任者
小松 幸代

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆さまのご健康と一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

グループ環境最高責任者として、読者の皆さまに「環境・社会」に関わる2010年度のイオンの主な取り組みと、これからの方向性についてご報告させていただきます。

東日本大震災とイオンの社会的責任

イオンは、地震発生の直後に対策本部を立ち上げ、「地域社会の一員」として支援物資を提供することや、「地域の生活インフラ」として一日も早い営業再開を行うこと、そして「全国に店舗を展開する小売業」として、募金活動など全国のお客さまのお気持ちを届ける対応に努めました。

これらの活動を通じて、従業員一人ひとりが使命感を持ち、お客さまの生活を守っていくことが私たちの社会的責任そのものであることを改めて認識しました。今後もイオンができることを一つひとつ実行しながら被災者の皆さまを支援していきます。

環境・社会貢献活動へのこだわり

2010年はジャスコ(株)設立40周年の節目の年であり、さまざまな記念事業を行いました。その一環として、名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の趣旨を踏まえて、全国28カ所で地域のお客さまとともに海岸や里山などを清掃する「イオン Happy クリーンキャンペーン」を実施しました。活動を通じて多くの方々に生態系保全の大切さを学

んでいただくことができたのではないかと考えています。

イオンは、1990年に「地球にやさしいジャスコ委員会」を立ち上げ、「イオン ふるさとの森づくり」や買物袋持参運動に取り組むとともに、イオン1%クラブやイオン環境財団を設立するなど環境・社会貢献活動の基盤を整えてきました。以来、さまざまな活動に取り組んできましたが、私たちがすべての活動でこだわってきたことは、「いち早く」「継続して」「お客さまとともに」取り組むことです。今後もこうしたこだわりをイオンの環境・社会貢献活動の礎として取り組みの輪を広げていきます。

中期経営計画の策定とサステナブル経営の実践

イオンは2010年10月に、中期経営計画としてアジアマーケット、シニアマーケット、大都市マーケットでの成長をめざすことを発表しました。イオンの成長は、環境保全や社会の持続可能(サステナブル)な発展をともなうものでなければならぬ、すなわちサステナブル経営を実践していく必要があります。

私たちは、サステナブル経営の実現に向けて、「低炭素社会の実現」「生物多様性の保全」「資源の有効利用」「社会的課題への対応」の4つを重点課題の柱に掲げました。これらはいずれもサステナブルな国際社会を実現するために解決すべき重要な課題であり、グローバル化を進めるイオンにおいても、より大きな責任を担っていく必要があると考えています。

今後は、この4つの課題について具体的な施策を検討・推進するとともに、それぞれの進捗状況について定期的にモニタリングし、毎年、読者の皆さまに情報を公開していきます。